

令和6年度 第1回 館山市子ども・子育て会議 要録

1 委員会名 館山市子ども・子育て会議

2 日 時 令和6年7月29日(月)10:00～11:30

3 会 場 市役所本館2階会議室

4 出席委員 石渡委員長、中島副委員長、齋藤委員、石井委員、中村委員、田中委員、
清宮委員、鈴木健一委員、吉井委員、石垣委員、鈴木ひとみ委員、古谷野委員

5 事務局 教育部長、こども課長、副課長、家庭児童係長、幼保係長
子育て支援係長、黒川主事、佐藤主事

6 会議次第

1 開 会

2 議 事

(1)令和5年度子ども・子育て支援事業実施状況について

(2)第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果報告

3 その他

4 質疑・応答

5 閉 会

■ 議事

(1) 令和5年度子ども子育て支援事業実施状況について

- ・事務局（子育て支援係長）概要説明

<質疑応答>

【斎藤委員】

- ・この評価はどういう評価基準なのか。Eについては未実施がとなっていて、それがやりたいけどできないのか、時代やニーズにあっていないから別の形でやろうとしているのか。Eだけど（前計画から継続して）掲載し続けているものもあるようなのでその理由があれば教えていただきたい。

【事務局】

- ・評価は各担当課が実施している。未実施のものについては、様々な状況があってできないものもある。今後は、形を変えてできるものは実施し、方向転換が必要なものはそのようにしていきたい。

【斎藤委員】

- ・例えば、Eの77番はコロナ以降実施していないが、また再開するのか、担当課を変えて、違う形でやっていくのか。112番のサポーター活動について、住民がサポートに携われるようになる事業で、これこそ大事だと思うので、未実施なのはもったいない。

【事務局】

- ・貴重なご意見をいただいたので、検討していきたい。

【中村委員】

- ・先ほどのEの77番は、保健推進委員により本年度からやる方向で進めている。

【石渡委員長】

- ・評価については、特にE評価については、今後どのようにしていくのか、わかるようにしていきたい。

(2) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果報告

- ・アンケート報告書の概要説明（（株）ぎょうせい堀内研究員）

<質疑応答>

【鈴木委員】

- ・「館山市が子育てしやすいまち」と思う割合が落ちてしまった要因については、他の先進的な自治体の事例を見聞きして、あれもないこれもないとなっているか

ら、というのは感じる。小5・中2と同じようなアンケートの設問を先進的な自治体で取っているか。例えば南房総市など。

【事務局（（株）ぎょうせい）】

- ・全く同じ設問ではないが、比較できる項目はあるかと思う。次回会議で、比較できそうなものについては示したい。

【石垣委員】

- ・発達に遅れがある子どもが毎年増えており、それに関する支援を事業として設けてほしい。そのために、人の配置が必要となる。発達に遅れのある子も、（認定こども）園に入り集団生活をする则変わっていく。園の外部のリハビリの施設とか、小規模でみてくれる施設とかと並行して通ってもらくと、それもまた進歩がみられる。保護者の方にはそれら施設の利用を促すが、それが伝わらない、利用してもらえないことがある。そういう保護者に、行政からも働きかけをしてもらいたく、行政と連携していけたらと思う。

【石渡委員長】

- ・第3期計画において、反映していただく意見だと思う。事務局にはご検討いただきたい。

【田中委員】

- ・昨日、農協でオーガニックマルシェがあり参加していた。学校の給食などに、地元の食材をつかってみてはどうか。地元の食材を子どもにもとアピールしてほしい。もう一つ、20年前、座談会のような場で市長への意見として、雨が降った時に子どもたちの遊ぶ場所がない、ということを伝えたが、何十年経っても変わっていない。そういう施設があれば、地元の人だけでなく観光客も喜ぶし、子どもたちも喜ぶと思う。

【吉井委員】

- ・36ページに、（ヤングケアラーとして）学校に行きたくても行けない、という小学校5年生が、3、4人いる。学校や、市として連携して把握しているのかどうか。何らかの対策は練っているのかどうか。

【事務局】

- ・ヤングケアラーについては、おじいちゃんおばあちゃんの介護をしているとか、お母さんの精神的な病気のために家事を手伝っているなど、様々な理由があると思う。今後、どこまで踏み込めるかわからないが関係課で調整しながらやっていく必要があると考えている。

【吉井委員】

- ・これは、すぐにでも対応しなければいけない内容かと思う。児童相談所なりにながていかないといけない案件ではないか。

【事務局】

- ・いまヤングケアラーとして対応している案件はいくつかある。アンケートの児童が、その対応している事例と同じなのかどうかはすぐには確認できないが、未確認の事例であるかどうか今後確認していきたい。

【鈴木委員】

- ・こどもの居場所がもっと欲しい、という意見があった。未就学の子どもには元気な広場があり、小学生になると子どもたちが行く場所がない、という印象。学校が終わってからの居場所を考えていかなければいけないのではないかと。前回の計画策定時にも、公園が欲しいというアンケート結果はあった。ご検討いただきたい。

【中島副委員長】

- ・中学2年生の調査の回収率の低さが気になる。

【事務局（（株）ぎょうせい）】

- ・ご指摘の通り、中学2年生の回収率は低いが、今回の方法ではこれくらいにならざるを得ないと思う。回収率を高めるには授業中に実施していただくことが望ましく、次回以降に今回の経験を活かしていきたい。

3 質疑・意見交換

【石井委員】

- ・アンケートを見て、自由意見部分の保護者の意見を読んでいると、心が苦しくなる。その中で、働いていない時でも子どもをみてほしいとか、普段仕事しているから土日みてもほしいとか、切実な声だと思って読んだ。また、南房総市と比べて、という意見が多くあった。南房総市は補助があるらしいが、館山市とそんなに異なるものなのか。

【事務局】

- ・経済的な支援についての意見が大きいと思われるが、我々としても様々な支援の仕方があると考え、何が一番望ましいのか、財政部局とも相談しながらやっていきたい。

【斎藤委員】

- ・保護者の意見をみていると、育ててもらおうという感覚が非常に強いと感じた。こどもとのかかわる時間が、楽しめるような育児であってほしいと思う。こどもを見ても

らう、こども園、学童、とかに対するニーズは出てきているが、配偶者にはニーズがないのか、とも思う。個人的には、男性の育休の取得とかはとても大事だとも思うが、あまり触れられていない。実際に子育てする大変さは、自分もしているのでわかるが、お金をあげればいいのか、と疑問に思う部分もある。給食費が無料はいいけど、その分税金も上がるだろうし、公園の整備にもお金がかかる。好き勝手言っているな、と思う一方、それだけ苦しいのだなとも感じた。子どもたちが道路でスケボーをやっている状況がある。子どもたちの主張もあるので、子どもの居場所が大事だということもわかる。

【石垣委員】

- ・保護者の自由意見のところにある、小児医療体制について、リハビリなど、そして夜間の診察が市内で対応できないので、（鴨川市の）亀田にいくというのもしょっちゅうある。市内でなんとかならないのかと思う。

【石渡委員長】

- ・様々な意見をいただいた。こういった意見を踏まえて、計画策定に反映させていただきたい。